



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子 ☎047-767-5030

伊原 忠 ☎047-488-7207

飯川英樹 ☎080-1239-8132

日本共産党八千代市議団メール：kyousan@jcp-yachiyo.jp

日本共産党
八千代市議団
ホームページ

<https://jcp-yachiyo.jp>



第625号

2024年2月19日

発行

日本共産党

八千代市議会議員団

八千代市大和田新田

312-5

「八千代医療センターはどうなるの」市民から不安の声

2006年12月に東京女子医科大学付属病院として開院した八千代医療センターは、八千代市の地域医療を支援する中核病院として、市民の医療課題に対応するために設置され、その目的を達成するために市からは土地が無償提供され、さらに91億円もの税金が補助金として投入されています。

しかし、数年前から医師や看護師の離職退職が続き、今でも4つの診療科が休診のままであり、新規患者の受け入れも休止されたままです。市民からは「お世話になった先生が居なくなりました」「病院が無くなってしまわないか心配」「転院する羽目に」などの声があがっています。

地域医療のあり方を考える市民学習会が開催される

八千代市の市民団体「市民が主役の市政を実現する会」は2月11日に「地域医療のあり方を考える市民学習会」を開催、約130名もの方々で会場を埋め尽くしました。

学習会の中で、ジャーナリストの岩澤倫彦さんによる講演会が行われ、本年4月からの働き方改革により、医師は月155時間が上限とされ、医療センターでもこの対応が求められるとしたうえで、「八千代医療センターにおける宿直許可の疑惑と働き方の実態」、「麻酔科の医師4人全員の退職が確定的」などの問題とともに、「東京女子医科大学が抱える問題」とあわせて「八千代医療センターは存続できるのか？」という投げかけによって、あらためて地域医療の存続について考えさせられるような内容でした。

「常勤の麻酔科医4人が一気に退職することになれば、医療センターでの手術をためらう」（参加者の声）などの感想が寄せられています。



参加者で埋め尽くされた会場の風景

八千代医療センターの正常化をめざして

日本共産党八千代市議団では、これまでに市民団体などとともに、八千代市や千葉県が具体的な問題解決に向けた動きを見せていないこと、「八千代医療センター運営協議会」が機能していない点などを指摘しています。

昨年12月の定例議会では、「地域医療協議会」を八千代医療センターに対等なものと言える、民主的に運営される組織として再開するべきと求めています。

2月20日から始まる定例議会においても、早急に改善を求める質問を行い、市民が安心できる医療体制が維持されるように引き続き頑張ります。